



若いハヤブサ！



飛翔猛禽類の識別法

写真・文／専門官 有本 実

藤里森林生態系

保全センター

令和2年3月18日

白神通信

No.91付録

“翼開長〇cm、白い眉斑が目立ち次列風切の模様が云々…”猛禽類を覚えようと図鑑を読み込んでみたものの、現場で突然パッと飛ばれて数秒で視界から消えてしまい、大きさも色も全然分からずお手上げ…そんな経験をされた方に、私なりの飛翔猛禽類の識別法をご紹介します。

まずお伝えしたいのは、冒頭の“翼開長～”といった体のサイズや模様等図鑑に書かれている詳細な特徴に関して、私は現場で全くとっていいほど見ていません。正確には『見られません』と言うべきで、林野巡視がてら肉眼で、もしくは小さな双眼鏡でそこまで見るというのは無理な話でしょう。ではどこに注目しているかというと、奥山・里山・水辺等の環境と季節から大体の種を絞ってにおいて、①シルエット(飛翔する形)と②羽ばたき方の主に2点を見て識別しています。

本稿では私的に撮りためた画像を使用し、一応カラスと比較した大きさを紹介していますが、1羽で飛ばれるとよく分からないので、あくまで目安にすぎません。そして白神山地周辺の巡視中に遭遇しそうな比較的大きな種を選定しているため、草原性の種や小型種は割愛しています。

覚えるコツとして、まず初めにどこにでもいるトビとノスリを完全マスターしましょう。見る機会が多いので、シルエットと羽ばたき方をじっくり観察して脳に刷り込ませます。そのうち『トビでもノスリでもないな、アレ』という思考回路ができればしめたもの。クマタカはすぐに判るようになるはずですよ。

(腹面)



2014.5.18 青森県三沢市

(背面)



2018.12.23 秋田県男鹿市

【トビ】: カラスより一回り大きく、尾羽は三角形のバチ型。羽を広げて旋回する際、翼の先が垂れ下がり独特の形状になり、慣れれば尾羽が見えなくても識別できる。平地～奥山まで至る所で見られる。

(腹面)

頭が大きくポッチャリ体型
かわいい印象



2012.1.14 宮城県登米市

(背面)

越冬のため低地に移
動してくる秋～冬が特
に観察しやすい



2017.12.3 秋田県大湯村

【ノスリ】: カラスと同じくらいのサイズで、トビ同様に平地～奥山までどこでも見られる。頭が大きくポッチャリした丸っこい体形で、尾羽は扇形。ネズミ類を食べるため、農耕地帯の電柱に止まっていることが多い。



【トビ・ノスリ識別の注意点】:トビの三角形の尾羽は全開すれば扇形に、ノスリの扇形の尾羽は閉じればハイタカのような角張った形に見える。体の一部ではなく、全体的なシルエットを覚えるとよい。



【ミサゴ】:カラスより一回り大きく、翼が細長く尾羽が短く、スマートな印象。魚を主食にしているため河川や湖沼等水辺に多く、空中から泳いでいる魚めがけて水中にダイブして狩りをする光景が見られる。



【クマタカ】:カラスよりはるかに大きく、翼が幅広で後縁が大きく膨らんだ形状が“やっこ凧”を連想させる。奥山に生息するイメージだが、白神周辺では里山の集落上空をゆったり飛翔していることもしばしば。



【イヌワシ】:カラスよりはるかに大きく、クマタカと違って翼の幅が狭く横長で、“グライダー”を連想させる。白神の奥山で見られ、見晴らしの良い場所で日がな一日空を眺めていると時折姿を現してくれる。

(腹面)



2016.3.21 青森県五所川原市

(背面)



2016.3.21 青森県五所川原市

【ハヤブサ】:カラスと同じくらいのサイズで、太い胴体と先のとがった翼が特徴。断崖に営巣するため、崖がある場所ではハヤブサがいるかも、と意識しておくといよ。ハトの様にパタパタ羽ばたいて直線的に飛ぶ。

【ハイタカ】



2016.8.18 北海道鹿追町

【オオタカ】



2019.12.9 秋田県大湯村

ハイタカはカラスより一～二回り小さく、オオタカはカラスと同じくらいのサイズで、ともにハトの様にパタパタ羽ばたいて直線的に飛ぶ。どちらも里山～奥山に生息するが、白神の奥山ではハイタカの方が多く感じる。

【オオタカ】



2019.12.9 秋田県大湯村

【アオバト】



注)あくまで私のフィーリングです…

2018.8.12 北海道白糠町

【ハト類との羽ばたき方の違い】:ハイタカを覚えると、時々ハトと見間違えるようになることも。ハヤブサ・ハイタカ・オオタカは羽ばたく際に翼をまっすぐ打ち下ろすが、ハト類は翼が一瞬キュッと曲がるように見える。

【ハチクマ】



2011.9.24 長野県松本市

【サシバ】



2010.9.25 長野県松本市

【サシバの鷹柱】



2011.9.24 長野県松本市 白樺峠

ともに夏鳥で、5～10月頃限定。ハチクマはカラスより一回り大きく、体の割に頭が小さく長く見える。サシバはカラスと同じくらいのサイズで、“ピッキイー”という鳴き声の特徴。この2種は秋の渡りのポイントで沢山見て覚えると良い。



【オジロワシ】: 次種オオワシとともに冬鳥で、両種とも 11～3月頃限定。カラスよりはるかに大きく、成鳥は白い尾羽が目立つ。翼の前縁と後縁が平行で、羽を大きく広げると長方形に見える。



【オオワシ】: カラスよりはるかに大きく、白黒のツートンカラーが遠くからでも目立つ。オジロワシとともに魚を好んで食べるため、海辺や河川、ダム湖等で見られる。白神周辺ではオオワシの方が少ない印象。

トビとノスリを完璧にマスターすれば、水辺のミサゴと崖地のハヤブサはすぐに見分けがつくようになるでしょう。また、上空でホバリングしている猛禽がいたら、下が畑や草地ならノスリ、水面ならミサゴの可能性大です。夏鳥のハチクマはアクロバティックなディスプレイ飛翔や尻下がりの鳴き声も判断材料になりますし、サシバは翼の後縁が直線的に見える事も特徴的です。冬鳥のオジロ・オオワシはとにかく大きいので識別は容易でしょう。トビとノスリさえ見分けられれば、夏鳥がいなくなり冬鳥が来る前の晩秋、奥山でゆったり羽ばたいて飛ぶ猛禽はクマタカ・イヌワシの2択です！

お勧めなのがバードウォッチングのイベントで、白神山地世界遺産センター藤里館や鳥海イヌワシみらい館等で毎年開催されています。飛んでいる猛禽類をその場で直接教えてもらうのが猛禽類を覚える一番の近道ですし、猛禽以外の小鳥達も名前を覚えると愛着がわくもので、鳥にハマること請け合いです。もう一つお勧めなのが、インターネット上にアップされている飛翔猛禽類の動画を視聴する事です。例えば『ハヤブサ 飛翔』などと動画検索すれば多数の映像がヒットしますが、あまり大きく鮮明に撮影されていない動画の方が勉強になります。シルエットと羽ばたき方以外に、鳴き声も録音されていることがあり大変参考になります。

最後に、私が飛翔猛禽類識別のバイブルとして使用している本をご紹介します。文一総合出版の『タカの渡りを楽しむ本』で、同定に迷いが生じた時には必ず見返しています。この本と双眼鏡の2点セットで猛禽類を究める！というのを来年度の目標にしてみたいはいかがでしょうか？



(発行) 林野庁 東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター
〒018-3201 秋田県山本郡藤里町藤琴字大関添 24-3
TEL:0185-79-1003 FAX:0185-79-1005

